

泣く子は

いねえが

監督・脚本・編集：佐藤快磨
主題歌：折坂悠太「春」(Less+Project.)
企画：是枝裕和

仲野太賀 吉岡里帆

寛一郎 山中崇 田村健太郎 古川琴音 松浦祐也 師岡広明 高橋周平 板橋駿谷 猪股俊明
余貴美子 柳葉敏郎

エグゼクティブプロデューサー：河村光庸 プロデューサー：大日向 隼 伴瀬 萌 古市秀人 音楽：折坂悠太 撮影：月永雄太 照明：後関健太 録音：吉田憲義
美術：西尾共未 衣裳：馬場恭子 ヘアメイク：那須野 詞 小道具：故引英里 スクリプター：内田智美 音響効果：廣中桃李 キャスティング：田端利江
スチール：草野庸子 助監督：森本晶一 制作担当：角田 隆 ラインプロデューサー：中円尾直子 企画：是枝裕和 企画協力：分福 制作プロダクション：AOI Pro.
配給：パンダイナムコアーツ/スターサンズ 宣伝：KICCORIT 製作：「泣く子はいねえが」製作委員会 パンダイナムコアーツ AOI Pro. 朝日新聞社 まるふく
スターサンズ 秋田魁新報社 協賛：秋田海陸運送株式会社 株式会社薔露酒造店 株式会社寒風 株式会社清水組 秋田信用金庫 三和興業株式会社 株式会社秋田銀行
後援：男鹿市 秋田県 助成：文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

**金も、仕事も、自信も、自分も、何もない。
こんな俺でも、父親になれますか？**

ストーリー

たすくは、娘が生まれ喜びの中にいた。一方、妻・ことねは、子供じみて、父になる覚悟が見えないたすくに苛立っていた。大晦日の夜、たすくはことねに「酒を飲まず早く帰る」と約束を交わし、地元の伝統行事「ナマハゲ」に例年通り参加する。しかし結果、酒を断ることができずに泥酔したたすくは、溜め込んだ鬱憤を晴らすように「ナマハゲ」の面をつけたまま全裸で男鹿の街へ走り出す。そしてその姿がテレビで全国放送されてしまうのだった――。
それから2年の月日が流れ、たすくは東京にいた。ことねには愛想をつかされ、地元にも到底いられず逃げるように上京したものの、そこにも居場所は見つからず、くすぶった生活を送っていた。そんな矢先、親友の志波からことねの近況を聴く。
ことねと娘への強い想いを再認識したたすくは、ようやく自らの愚行と向き合い、地元に戻る決意をする。
だが、現実はその容易なものではなかった…。
果たしてたすくは自分の“生きる道”、“居場所”を見つけることができるのか？

監督：佐藤快磨

1989年生まれ、秋田県出身。初の長編監督作品『ガンバレとかうるせえ』(14)が、ぴあフィルムフェスティバルPFFアワード2014で映画ファン賞と観客賞を受賞、第19回釜山国際映画祭のコンペティション部門にノミネートされるなど、国内外の様々な映画祭で高く評価される。文化庁委託事業「ndjc:若手映画作家育成プロジェクト2015」に選ばれ、『壊れ始めてる、ハイハイハイ』(16)を監督。その後、『歩けない僕らは』(19)などを制作している。

「佐藤監督を応援する会」とは

「佐藤監督を応援する会」は秋田市出身の佐藤快磨監督による映画『泣く子はいねえが』の製作に合わせ結成され、撮影に係る諸事業の円滑な運営、地元秋田・男鹿の素材、魅力発信をサポートし、地域を活性化させようとして、糸井真吾さん(不動産会社代表)を中心に結成されました。
参加メンバーには多様な面々が並び、撮影開始前から製作側との情報交換を幾度となく行ってまいりました。
これまでに、ロケ地決定のための取材協力を行ったほか、撮影現場では温かい郷土料理(だまこ鍋、男鹿しょっつる焼きそばなど)を提供し、昼夜・場所を問わず行われる撮影をサポート。雪対策、エキストラ手配、ロケ地協力、広報活動など、作品の製作・公開に向けた後押しを行っています。
応援する会では佐藤監督を世界に羽ばたかせるべく、地元秋田からサポートを継続していきます。



泣く子はいねえが

秋田県男鹿市 ロケ地マップ

たすくたちの生き様を撮影したスポットをご紹介します。
映画を見た後に訪れるとなお楽しめるかも！



3 入道崎



劇中で表現される圧倒的な世界観。その中でたすくの心は大きく揺れ動く。

3 入道崎

北浦入道崎昆布浦

4 男鹿水族館GAO



主人公たすくは、無秩序に動く魚の群れを見ながら、自らの葛藤に向き合い始めます。

ホッキョクグマやペンギン等人気の生き物や川の生き物はじめ、巨大水槽、水中トンネルなど見所が満載です。水族館前にある海岸は岩場がゴツゴツしていて波も激しく、力強い日本海の景色を楽しめます。

☎ 0185-32-2221
時 9:00~17:00(11~2月は16:00)
休 HPをご確認ください
<http://www.gao-aqua.jp>



5 鶴ノ崎海岸

名物ババヘラが売られる、観光地でもある男鹿の日常。このシーンの背後に広がる磯の地形や海岸線の美しい景色はまさに男鹿の象徴。鏡のような水面に反射した風景が美しく、写真映えする人気スポットです。



7 パチンコすずらん



重要なシーンを撮影。監督は夜の情景を撮影したかったとか。

☎ 0185-24-2593
時 9:30~22:00
休 年中無休

6 製材所

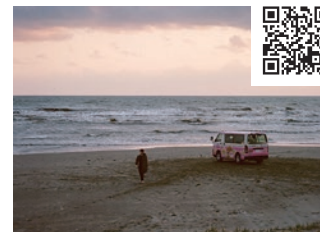
佐藤監督は一目見て、劇中イメージを膨らませたそうです。事務所、母屋……そのままを使用しています。

※私有地ですので、無断立入はご遠慮ください。



8 船越海岸

劇中の重要なシーンに数多く登場する砂浜と情景。途切れなく押し寄せる波はたすくの心をかき乱します。



11 里山のカフェにぎ



極限の緊張感のなか衝撃的なラストカットが撮影されました。

にぎでは農家民宿も営業。民宿体験メニューでは、映画に登場しただまこ作りなどの郷土料理を体験できます！

☎ 0185-27-8422 時 11:30~16:00
休 水、木(臨時休有 HPをご確認ください)
<http://ninigi-cafe.com/>



10 男鹿総合観光案内所



本編と撮影の起点となる男鹿の象徴。男鹿半島の入口にある観光案内所の巨大ナマハゲは写真映えスポットです。

☎ 0185-35-5300 時 9:00~17:00 休 年中無休

9 道の駅おがオガーレ

☎ 0185-47-7515 時 物産館8:30~17:00
休 1月1日~2日(臨時休有 HPをご確認ください)
<http://michinoekioga.co.jp>



詳しい情報は男鹿市公認観光情報サイト「男鹿ナビ」をご覧ください
<https://oganavi.com/>

